

2020 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	加藤周一現代思想研究センター
---------	----------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本研究センターの基礎作業として 2015 年来継続している「加藤周一手稿ノート」のデジタルアーカイブ化作業は、半田侑子研究員を中心に西澤忠志、福井優（博士課程院生）の協力を得て進め、本年度は「〔徳川〕」「徳川時代・儒」「国学」「〔新井白石〕」「富永仲基」「富永仲基・懐徳堂資料」「〔中国訪問 1977〕」の 7 冊をデジタル化して公開した。これによって累計 29 冊の手稿ノートのデジタル公開ができたことになる。本アーカイブへのアクセス数も増えており、社会的発信ならびに若手育成という目的にもかなう結果となっている。

2019 年 9 月に、東京・日仏会館と本研究センターは、人文科学研究所の協力を得て、加藤周一生誕百年記念国際シンポジウム「加藤周一を 21 世紀に引き継ぐために」を共催した。その講演録を 20 年 9 月に水声社から刊行した（総 464 頁）。本書には本研究センター研究員樋口陽一、鷲巣力、三浦信孝、小関素明、李成市が寄稿した。

同じく 9 月には日仏会館主催の「加藤周一記念講演会」において、センター長の鷲巣力が「なぜ『日本文学史序説』は書かれたのか」と題するオンライン講演を行なった。

また東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センター主催のオンライン公開研究会「松本礼二著『20 世紀比較思想史と丸山眞男』を読む」に、鷲巣が報告者として参加した。同研究会には、松本氏のほか、渡辺浩、宇野重規、趙星銀、山辺春彦の諸氏も参加した。なお同公開研究会の記録は丸山眞男記念比較思想研究センター編の『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 16 号に掲載された。

丸山眞男記念比較思想研究センターとの研究提携は 3 年目を迎え、今年度は本研究センターが中心になって企画した「加藤も丸山も映画大好き！ 我を人と成せし者は映画」という共同展示を行なった。この展示は福井優をはじめとする加藤文庫スタッフが執筆・作成したものであり、若手育成という観点からも有意味の企画であった。双方の学内での展示（本学では三キャンパスにおいて）と同時に、新しい試みとしてオンライン公開もした。

コロナによって中断されていた公開講読会「『羊の歌』を精読する」を 20 年 12 月に再開し、以降 21 年 3 月まで、毎月 1 回ずつ、主としてオンラインと対面の併用で、一度はオンラインのみによって行なった。この講読会も若手研究者の育成という位置づけで行なっているが、市民の前で長時間の報告を行なうという経験は、のちのちに活かされると確信する。講読会の回を追うごとに参加者も増えており、とりわけオンラインによる講読会になって、関西以外からの参加者が増えてきている。参加者のアンケート調査でも、講読会に対する高い評価を得ているが、本研究センターの社会的発信としては一定の成果を上げていると考える。また、大学院生有志に対する「自主ゼミ」も 21 年 2 月から再開して、加藤の日本文学史と津田左右吉の日本思想史の併読を進めている。

しかし、研究計画のすべてが順調に進んだわけではない。新型コロナによる緊急事態宣言が出され、大学では入構禁止措置が取られ、共同研究会は延期せざるをえなくなった。研究メンバーには次年度の活動に備えて、各自の研究を進めるように依頼した。その結果は各研究員の研究実績報告欄に譲るが、「東アジアにおける戦後日本思想」を理解する上での基礎的な作業を進めた。この研究課題には韓国や中国の研究者の参加を不可欠の条件と考えていた。とりわけ初回の研究会は会員が顔を合わせる必要があると判断して、コロナ禍の早期収束を待ったが、コロナは収束どころか拡大し続けて、研究方法の方向転換を図る機会を逸してしまった。加えてセンター長鷲巣の不慮の事故により、二度の入院と二度の手術を余儀なくされ、主として研究会などが滞った。

コロナ状況は中国でも同じであり、清華大学で行なう予定だった研究代表者の鷲巣による集中講義も中止に追い込まれ、この機会に同時に行なう予定だった現地での共同研究会も実行出来なかった。韓国側に対しては、具体的に計画を提案する状況に到っていないと判断せざるをえなかった。そのために研究計画に遅れが生じたことは否めない。次年度に向けての反省点としたい。同時にコロナが収束して一日も早く平常に復帰することを願う。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2021年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	鷲巢 力	衣笠総合研究機構	招聘研究教授	
運営委員	加國 尚志	文学部	教授	
	小関 素明	文学部	教授	
	岡本 雅史	文学部	教授	
	西岡 亜紀	文学部	教授	
	北村 順生	映像学部	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	中川 成美	文学部	特任教授	
	根津 朝彦	産業社会学部	准教授	
	福間 良明	産業社会学部	教授	
	住田 翔子	産業社会学部	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	半田 侑子	衣笠総合研究機構	研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	西澤 忠志	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		福井 優	文学研究科	博士課程後期課程
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
	その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	猪原 透	文学部	授業担当講師
客員協力研究員	樋口 陽一	東京大学	名誉教授	
	三浦 信孝	財団法人日仏会館	副理事長	
	ジュリー・ブロック	京都工芸繊維大学	教授	
	彭 佳紅	帝塚山学院大学	教授	
	桜井 均	立正大学	非常勤講師	
	石塚 純一	札幌大学	名誉教授	
	龍澤 武	東アジア出版人会議	理事	
	宮村 治雄	成蹊大学アジア太平洋研究センター	客員研究員	
	川口 雄一	成蹊大学	非常勤講師	
	片岡 大右	慶應義塾大学商学部	非常勤講師	

	落合 勝人	株式会社集英社	新書編集部編集長
	李 成市	早稲田大学文学学術院	教授
	山口 智也	日本放送協会制作局	ディレクター
	金子 元	秀明大学	非常勤講師
	山辺 春彦	東京女子大学 (丸山眞男記念比較 思想研究センター)	特任講師
	孫歌	中国社会科学院文学研究所	研究員
	王中忱	清華大学中国語文学系	教授
	林 慶澤	韓国国立全北大学校	教授
	翁 家慧	中国北京大学外国語学院 日本語文化系	副教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	野口 雅弘	成蹊大学	教授
	富山 仁貴	日本学術振興会	特別研究員 DC
研究所・センター構成員 計 34 名 (うち学内の若手研究者 計 3 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2021年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	鷺巣 力	加藤周一を 21 世紀に引き継ぐために	共編	2020 年 9 月	水声社	三浦信孝（編者）	全 464 頁
2	小関 素明	日本近代主権と「戦争革命」	単著	2020 年 12 月	日本評論社		p.1-488
3	西岡 亜紀	高畑勲をよむ 文学とアニメーションの過去・現在・未来	共著	2020 年 4 月	三弥井書店	中丸禎子・加藤敦子・兼岡理恵・田中琢三編	p.132-152
4	根津 朝彦	『はじめてのメディア研究 第2版—「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで	共著	2021 年 2 月	世界思想社	浪田陽子・福間良明編	p.223-228
5	福間 良明	『「勤労青年」の教養文化史』	単著	2020 年 4 月	岩波書店		全 305 頁
6	福間 良明	『戦後日本、記憶の力学：「継承という残絶」と無難さの政治学』（	単著	2020 年 7 月	作品社		全 344 頁
7	福間 良明	『近頃なぜか岡本喜八——反戦の技法、娯楽の思想編』	共著	2020 年 9 月	みずき書林	山本昭宏編	p.66-114
8	福間 良明	『はじめてのメディア研究 [第2版]』	共著	2021 年 2 月	世界思想社	浪田陽子・福間良明編	p.58-107、189-194、237-242
9	福間 良明	『戦後博覧会資料集成』第14巻	編者	2021 年 3 月	ゆまに書房		全 465 頁
10	片岡 大右	民主主義の非西洋起源について：「あいだ」の空間の民主主義	翻訳	2020 年 4 月	以文社	デヴィッド・グレイバー著	全 187 頁
11	片岡 大右	古井由吉：文学の奇蹟	共著	2020 年 6 月	河出書房新社		p.86-96
12	片岡 大右	加藤周一を 21 世紀に引き継ぐために：加藤周一生誕百年記念国際シンポジウム講演録	共著	2020 年 10 月	水声社		p.195-209

. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	鷺巣 力	二十世紀日本思想史への構想——松本礼二『知識人の時代と丸山眞男』を読んで	共著	2021 年 3 月	丸山眞男記念比較思想研究センター、丸山眞男記念比較思想研究センター報告、16 号	宇野重規、趙星銀、山辺春彦ら	p.23-29	無
2	加國 尚志	メルロ＝ポンティにおける現象学と形而上学	単著	2020 年 5 月	京都大学哲学論叢刊行会、哲学論叢第 47 号		p.1-19	無
3	岡本 雅史	直喩標識としての「じゃないけど」——談話における直喩とアナロジーの再考に向けて——	単著	2020 年 4 月	日本認知言語学会、日本認知言語学会論文集 20 巻		p.126-137	無
4	福間 良明	『「コロナ」と「戦争の語り」：『あたり障りのなさ』が蔓延する戦後 75 年』	単著	2020 年 8 月	大阪福祉事業財団、『福祉のひろば』2020 年 8 月号		p.24-29	無
5	福間 良明	『継承』が生み出す『断絶』	単著	2020 年 8 月	朝日新聞出版、『Journalism』no.363		p.12-19	無
6	福間 良明	書評に答えて（小特集 合評会の記録：福間良明『「勤労青年」の教養文化史』を読む）	単著	2021 年 2 月	『メディア史研究』、VOL.49		p.52-67	無

7	猪原 徹	「国家主義の理想」を求めて——牧野英一の思想形成	単著	2021年3月	『日本思想史研究会会報』47号		p.28-41	有
8	片岡 大右	未来を開く——デヴィッド・グレーバーを読む	単著	2020年9月	『群像』75巻、9号		p.331-345	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	鷺巣 力	なぜ『日本文学史序説』は書かれたのか	2020年9月	第11回加藤周一記念講演会、財団法人日仏会館	
2	鷺巣 力	松本礼二『知識人の時代と丸山眞男』合評会	2020年12月	丸山眞男記念比較思想研究センター、東京女子大学	宇野重規、趙星銀、山辺春彦ら
3	加國 尚志	芸術の現象学序説	2020年8月	風景論研究会、オンライン開催	
4	岡本 雅史	リモート漫才対話における対話リズムの相互調整——インタラクションリズムの「修復」プロセスの解明に向けて——	2020年9月	日本認知科学会第37回研究大会、オンライン開催	本井佑衣
5	岡本 雅史	「Vて、どうぞ」——SNSにおける陳述副詞「どうぞ」の拡張的用法——	2020年11月	日本語用論学会第23回大会、オンライン開催	三瀬凧乃
6	岡本 雅史	「食べる」と「飲む」を伴う会話場面の身振り分析——会話と飲食を調節する〈アイドリング〉動作に着目して——	2021年3月	社会言語科学会第45回研究大会、オンライン開催	尾賀円香・赤井里奈
7	根津 朝彦	「コメント 川口悠子「故郷にとっての移民——占領期の広島と在米広島県人の貿易業者」」	2021年2月	法政大学国際日本学研究所「新しい「国際日本学」を目指して」第9回公開研究会、オンライン開催	
8	福間 良明	「勤労青年と教養」の歴史社会学：格差と労働の戦後文化史	2020年11月	社会政策学会・労働史部会研究会(2020年度第1回)、オンライン開催	
9	福間 良明	「地域社会と教養文化の戦後史」(記念講演)	2020年11月	熊本近代史研究会創立60周年記念シンポジウム「近代化と熊本の人物群像」、熊本市	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	共同企画展示「我を人と成せし者は映画——加藤も丸山も映画大好き」	立命館大学図書館内展示スペースおよびオンライン上	2020年10月～12月	300名	東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センター
2	加藤周一文庫公開講読会『羊の歌』を精読する(第7回)	衣笠キャンパス	2020年12月	40名	立命館大学図書館
3	加藤周一文庫公開講読会『羊の歌』を精読する(第8回)	衣笠キャンパス	2021年1月	40名	立命館大学図書館
4	加藤周一文庫公開講読会『羊の歌』を精読する(第9回)	衣笠キャンパス	2021年2月	40名	立命館大学図書館
5	加藤周一文庫公開講読会『羊の歌』を精読する(第9回)	衣笠キャンパス	2021年3月	40名	立命館大学図書館
6	大学院自主ゼミ「加藤周一と津田左右吉を読む」(第1回)	衣笠究論館会議室	2021年2月	5名	なし
7	大学院自主ゼミ「加藤周一と津田左右吉を読む」(第2回)	衣笠究論館会議室	2021年3月	5名	なし

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間

1	根津 朝彦	「根津朝彦のメディア私評 戦後75年 戦争責任を考える、未来への責任」	『朝日新聞』	2020年6月12日掲載
2	根津 朝彦	「根津朝彦のメディア私評 ジェンダー平等 まずはメディアが範を示せ」	『朝日新聞』	2020年9月11日掲載
3	根津 朝彦	「根津朝彦のメディア私評 天皇制とタブー 敬称報道、批判を抑制しないか」	『朝日新聞』	2020年12月11日掲載
4	根津 朝彦	「田中優子先生から授かった連」	『社会志林』67巻4号	2021年3月
5	根津 朝彦	「根津朝彦のメディア私評 ジャーナリズム文化 読者をつなぎ、萎縮せず書こう」	『朝日新聞』	2021年3月12日掲載
6	半田 侑子	「普遍的知識人の全体像を求めて」を寄稿	京都新聞「人文知のフロンティア」欄	2020年2月26日掲載
7	片岡 大右	人間の本性、対立超えると信じた人類学者、デヴィッド・グレーバーさんを悼む	朝日新聞	2020年9月16日夕刊

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1					

7. 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	鷺巣 力	東北アジアにおける戦後日本思想——加藤周一、丸山眞男、竹内好、鶴見俊輔を軸として	基盤研究(B)	2020年4月	2023年3月	代表
2	加國 尚志	メルロ＝ポンティの未刊草稿の研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	分担
3	小関 素明	終戦工作と戦後民主主義	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
4	岡本 雅史	社会的ヘテロフォニーとしての漫才対話～オープンコミュニケーションの超分節性の解明	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	代表
5	岡本 雅史	語りの生成と変容のダイナミズムに関する認知語用論的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	分担
6	西岡 亜紀	1940年代の若手文学者ネットワークと「世界文学」概念：福永武彦を軸に	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
7	西岡 亜紀	「ハイジ現象」の国際的伝播とメディア横断的展開についての研究	基盤研究(B)	2019年4月	2024年3月	分担
8	北村 順生	映像アーカイブの教育活用によるサーキュレーション型文化創造に関する実践的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
9	中川 成美	世界文学と日本文学—情動理論の共有を基礎として	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	代表
10	根津 朝彦	日本ジャーナリスト会議(JCJ)の戦後ジャーナリズム史研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
11	福間 良明	転換期としての「昭和50年代」と大衆メディア文化の変容	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	代表
12	福間 良明	戦後日本における勤労青年の教育・教養文化に関する歴史社会学的研究	挑戦的研究(萌芽)	2020年4月	2023年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1						

9. 知的財産権

--	--	--	--	--	--	--

